

⑫ 公開特許公報(A)

昭64-80662

⑤ Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和64年(1989)3月27日

E 04 F 19/04

1 0 1

A-2101-2E
D-2101-2E

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑭ 発明の名称 壁等の下縁部材

⑮ 特 願 昭62-238349

⑯ 出 願 昭62(1987)9月22日

⑰ 発 明 者 水 野 進 静岡県藤枝市藤岡4丁目488-38

⑱ 出 願 人 葵プラスチック株式会社 静岡県静岡市慈悲尾476番地
会社

明 細 書

1. 発明の名称 壁等の下縁部材

2. 特許請求の範囲

長尺状に形成されその表面側に凹部を備えその裏面側が壁等の下縁に沿って取付けられる幅木と、平面形状がL字形に形成され前記凹部に係合する係合部を備え幅木の隅部に取付けられるコーナパッドとからなる壁等の下縁部材。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は、壁等の下縁部材に関する。さらに詳しくは、壁、間仕切等の下縁を保護する等のために下縁に沿って取付けられる下縁部材の構造の改良に関する。

(従来の技術)

壁、間仕切等では、その下縁を保護する等のために、第3図に示すように壁A等の下縁の凹凸に沿って長尺状の幅木Bが一般に取付けられている。

従来、このような幅木Bでは、下縁の凹凸に沿って形成される隅部(出隅B'、入隅B'')において、第4図に示すように長尺状の幅木Bの端部を互いに斜状に切断して接合する手段が知られている。

このような従来の幅木Bの接合手段によれば、隅部B'、B''における継目等の外観体裁を整えることができ、室内装飾、安全性を損なわずに済むという利点がある。

(発明が解決しようとする問題点)

前述の従来の幅木Bの接合手段によると、隅部B'、B''における継目での幅木Bの正確な斜状の切断工作が必要なことから、施工が面倒であるという問題がある。

また、幅木Bの湿度、温度等による伸縮のために隅部B'、B''における継目に歪、間隙等が形成されやすく、外観体裁が損なわれると共にゴミ等が詰まって汚損するという問題がある。

本発明はこのような問題点を解決するため

になされたものであり、その目的は、施工が容易であり、かつ、外観体裁が良好で汚損が有効に防止される壁等の下縁部材を提供する。

(問題点を解決するための手段)

本発明に係る壁等の下縁部材は、長尺状に形成され、その表面側に凹部を備えその裏面側が壁等の下縁に沿って取付けられる幅木と、平面形状がL字形に形成される前記凹部に係合する係合部を備え幅木の隅部に取付けられるコーナパッドとから構成し、殊にコーナパッドを適度な弾力性を有する合成樹脂を用いて形成して、その弾力性を利用して幅木に嵌着する手段を採用する。

(作用)

本発明に係る壁等の下縁部材は、壁等の下縁の取付けられる幅木とこの幅木の隅部に取付けられるコーナパッドとの組合せ構造とすることで、幅木に下縁部材本来の機能を奏させ、コーナパッドで幅木の隅部を被置して前記不具合を隠蔽除去するものである。

つては制限を有しないが、適度な弾力性を有する合成樹脂材で成形する。コーナーパッド2の断面形状は幅木1の裏面15以外を被覆できるように略L字形になっており、前記凹部12と係合する二つの係合部21が設けられている。この係合部21の上部には前記凸部13と噛合う係合部22が設けられている。

これ等幅木 1、コーナーパッド 2 の組付け施工は、まず長尺状の幅木 1 を隅部 5 間の長さにて切断し、幅木 1 の裏面 15 に接着剤を塗布しまたは凹部 12 に釘、ビス等を打付ける等して裏面 15 を壁 3 等に当接固定する。而後、幅木 1 の凹部 12 にコーナーパッド 2 の係合部 21 を係合させて、幅木 1 の隅部 5 にコーナーパッド 2 を嵌着して取付ける。このような幅木 1 へのコーナーパッド 2 の取付けは、第 2 図に示すように幅木 1 の隅部 5 の出隅 51、入隅 52 に対して行なわれるが、コーナーパッド 2 の半面形状の L 字形を外側に開放するものと内側に開放するものを用意することで

(实施例)

以下、本発明に係る壁等の下縁部材の実施例を第1図、第2図に基づいて説明する。

この実施例は、幅木 1 とコーナーパッド 2 との組合せ構造からなる。

幅木 1 は壁 3 の下縁の床 4 上に沿って取付けられるもので、長尺状に形成されており適宜長に切断使用されるようになっている。この幅木 1 の材質については制限を有しないが、好ましくは合成樹脂材で成形するのがよい。幅木 1 の表面 11 側には長手方向に沿った長溝状の二つの凹部 12 が設けられており、この凹部 12 の上端壁に下方へ突出した凸部 13 を設け、同下端壁に外側へ向けて加工傾斜した傾斜部 14 を設けてある。幅木 1 の裏面 15 側には、前記凹部 12 と対応する部分以外の部分に複数の空隙部 16 が設けられている。

コーナーパッド 2 は幅木 1 の隅部 5 に取付けられるもので、平面形状が L 字形に形成されている。このコーナーパッド 2 の材質に

対応することができる。

この施工では、幅木 1 の切断を従来のように斜状に行なうことは必要なく、通常の切断（長手方向へ直交する線上での切断）で第 2 図に示すように縫合しても幅木 1 の隅部 5（出隅 51、入隅 52）がコーナパッド 2 によって完全に被覆され外觀体裁が整えられるため、施工（特に幅木 1 の切断工作）を容易に行なうことができる。なお、従来に比し、幅木 1 に対してコーナパッド 2 を取付ける工作が付加されるが、前記凹部 12 に係合部 21 を嵌合させるだけであるため施工を面倒にすることにはならない。また、このような施工が行なわれると、幅木 1 の伸縮によってその隅部 5（出隅 51、入隅 52）の縫目に歪、間隙が形成されても、コーナパッド 2 によって被覆されているため、外觀体裁が損なわれることはなく、またゴミ等が詰って汚損することはない。さらに、幅木 1 に空隙部 16 を設けてあることは、湿度、温度等による

幅木1の伸縮を吸収して前記隅部5での縫目の変形を低減すると共に、人の足等が当触した際にクッション機能を発揮し安全性を確保する利点がある。また、コーナパッド2の係合部21に傾斜部23を設けてあることは、傾斜部23の外側に付着したホコリ、水滴等の除去を容易にする利点がある。

以上、図示した実施例の外に、幅木1に設けられる凹部12を前記長溝状ではなく円形、方形等の短溝形とすることもできる。凹部12をこのような短溝形とすることもできる。

凹部12をこのような短溝形とすることもできる。凹部12をこのような短溝形の実施例とすると、コーナパッド2が取付けられる部分以外での幅木1の表面11の凹凸が削減され、外観体裁がさらに向上すると共にホコリ等の付着防止が向上する利点がある。

また、凹部12が長溝状であっても、幅木1の短手方向へ沿った構造とすることもできる。

凹部12をこのような構造の実施例とすると、

コーナパッド2が取付けられる部分以外で凹部12が上下方向へ配設されることになるため、ホコリ等が落下しやすくなって付着が防止される利点がある。なお、このような凹部12の変形に対しては、コーナパッド2の係合部21の変形に対応することになる。

(発明の効果)

以上のように本発明に係る壁等の下縁部材は、施工に際して長尺状の幅木を通常に切断するだけでよく、コーナパッド2は幅木1に嵌着するだけでよいから、施工が容易になる効果がある。また、幅木の隅部がコーナパッドによって被覆されるため、隅部の縫目の変形を隠蔽して、外観体裁が向上すると共にゴミ等の付着による汚損を防止する効果がある。

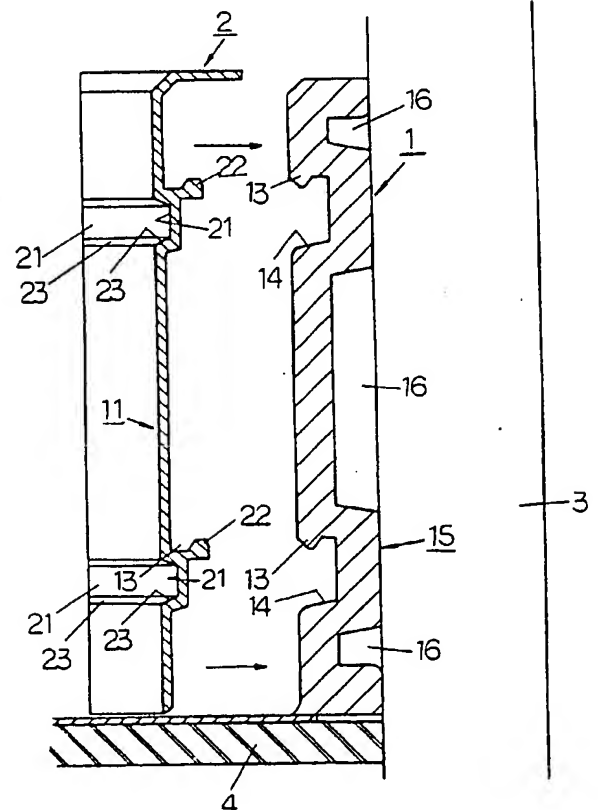
4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明に係る壁等の下縁部材の実施例を示す施工状態の断面図、第2図は第1図の施工状態を示す平面図、第3図は下縁部

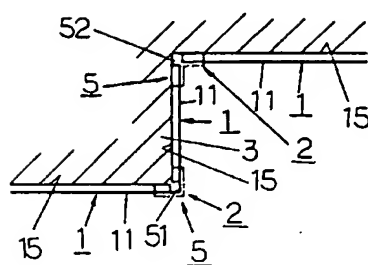
材の一般的な施工状態を示す斜視図、第4図は従来の下縁部材の隅部の構造を示す平面図である。

- | | |
|------------|------------|
| 1 ; 幅 木 | 2 ; コーナパッド |
| 3 ; 壁 | 4 ; 床 |
| 5 ; 隅 部 | 11 ; 表 面 |
| 12 ; 凹 部 | 15 ; 裏 面 |
| 21 ; 係 合 部 | 51 ; 出 隅 |
| 52 ; 入 隅 | |

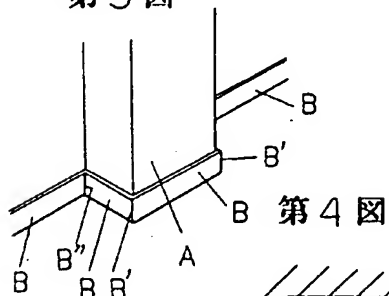
第1図



第 2 図



第3図



第4図

